

研究結果報告書

研究結果

本研究は、中国の日本語専攻の大学生を対象に、シャドーイング訓練が聴解力向上と発音改善に有効かどうかを検証したものである。実験の結果、以下のことが判明した。

(1) シャドーイング訓練と聴解力の関係

事前テストと事後テストの成績を t 検定で検証した結果、両テストの間に有意差が認められず ($t = -.294$ $p > 0.05$)、シャドーイング訓練による聴解力向上の効果は見られなかった。これはシャドーイング訓練が聴解力向上につながるとする先行研究と異なる。その理由として、両テストの成績のばらつきが大きく、効果が相殺された可能性がある。また、先行研究では、初級・中級学習者に対してシャドーイングの効果が大きいと指摘されている。しかし、今回の実験対象者は日本語主専攻の学生であり、日本語学校の学生や学部留学生を対象とした先行研究と異なるため、両者の言語能力の差が実験結果に影響を及ぼしたのではないかと推測される。よって、実験課題と聴解力の関係について、要因をうまく抽出できるように検討を重ねる必要がある。

(2) シャドーイング訓練と発音改善

拍、アクセント、文全体のイントネーション、句末・文末の音調、終助詞の「ね」と「よ」の音調、流暢さの面において、誤用率が減少し発音改善の効果が見られた。これは先行研究と一致する。これにより、JFL 環境で学ぶ大学生が自律学習でシャドーイングにより自分の発音を矯正できることが示唆された。

(3) シャドーイング訓練の捉え方

意識調査では、シャドーイング訓練が聴解力を向上させたとする学生とよくわからないとする学生に分かれた。一方、全員がシャドーイング訓練を通じて、自分の発音の問題点に気付き、意識的に注意するようになったとした。

シャドーイングは認知度の高い訓練法であるため、今後、シャドーイングの回数、時間、及び材料の難易度を検討した上で、シャドーイング訓練の効果を調べ、更なる研究を重ねていきたい。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題目 1: “影子法” 训练效果与改善日语语音语调的关系

発表者名: 尹松

会議名: 日本語教育発展論壇

日時: 2011年5月28日 - 29日

場所: 北京对外贸易大学

題目 2 日本語専攻の中国人大学生の聴解におけるシャドーイング訓練の有効性

発表者名: 尹松

会議名: 東北アジア地域における多元文化共生実態研究国際学術シンポジウム

日時：2011年8月3日 - 5日

場所：内モンゴル大学

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

“影子法”训练效果与改善日语语音语调的关系 投稿中

日本語専攻の中国人大学生の聴解におけるシャドーイング訓練の有効性 投稿予定

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）